

【松伏町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を活用したICT環境により、子供たちの学びは、個別最適化と協働的な学びの両面で進化し、個々の学習進度や理解度に応じた教材提供を可能とすることにより、児童生徒が、自ら学びを選択し学習を進めることができます。

また、オンライン教材や学習支援ツールの活用により、多様な学習支援を受けられるようになり、誰一人取り残さない学びを推進します。さらに、クラウド上での共同作業や意見共有を通じて、児童生徒同士の協働的な学びも促進させるとともに、教師はデータを活用し、一人ひとりに合った指導が可能となります。これにより、主体的・対話的で深い学びを実現させ、これからの社会で求められる思考力や問題解決力の育成することができます。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想第1期では、本町の小中学校に1人1台の端末と高速通信環境を整備し、本町の教育のデジタル化を推進する取り組みとなりました。

成果として、まず、ICT環境の整備が大きく進んだことが挙げられます。新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインによる授業や集会、デジタル教材の活用が加速し、児童・生徒が個別最適な学びを実現しやすくなりました。また、教員の授業方法の多様化も進み、動画や授業支援ツールを活用した授業が一般化しました。

さらに、ICTを活用した不登校支援策も成果を上げています。オンライン授業や学習支援ツールにより、不登校児童・生徒が自宅でも学びを継続できる環境が整い、誰一人取り残さない教育の実現に向けた前進がありました。不登校傾向にある児童生徒は、学校とのつながりを維持しやすくなり、社会的孤立の防止にも寄与しました。

一方で、いくつかの課題も浮き彫りになりました。第一に、教員のICT活用スキルの差が大きく、十分に活用できないケースが見られました。特に、従来の対面授業を前提とした指導法から脱却できず、端末を活かした指導に苦慮することがありました。第二に、通信環境が不安定になることがあり、授業がスムーズに進まないことや予定を変更せざるを得ない状況がありました。また、端末の管理やトラブル対応に関する負担が学校現場にのしかかり、教員の負担増加も課題となっています。

今後、第2期に向けては、教員のICT研修の充実、通信環境のさらなる整備、端末の効果的な活用モデルの確立が求められます。GIGAスクール構想の真の成果を上げるためには、技術導入だけでなく、それを生かした教育の質の向上が不可欠です。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 個別最適化学習の推進

AIドリルや学習アプリを活用し、児童生徒の理解度に応じた学習課題を提供します。一人ひとりの苦手分野の克服や得意分野の伸長をサポートします。

(2) 協働学習の促進

授業支援ツールを活用し、児童生徒同士や教員とのリアルタイムでの意見共有や共同編集を実施します。

これにより、思考の可視化や深い学びを促進します。

(3) オンライン学習の実施

不登校傾向にある児童生徒の学びを止めないため、オンライン授業や教材を活用し学校とのつながりを維持します。

これにより、不登校傾向にある児童生徒も安心して参加できる学習環境を提供し続けることで、学びの継続と社会的孤立の防止を図ります。

(4) プログラミング・探究学習への応用

プログラミング学習やデータ活用の授業に活かし、論理的思考力や課題解決力を育成するとともに、探究学習のツールとしても活用します。

(5) デジタル教材・映像授業の活用

教科書に加えて、動画やシミュレーション教材を活用し、視覚的・体験的に学ぶ学習を展開します。理科や社会などの実験・歴史学習で積極的に活用し、実感を伴った理解を図ります。